

植害試験結果の写真

処理物 A : A モデル 1 (調理くず + その他)

処理物 B : B モデル 1 (調理くず + その他)

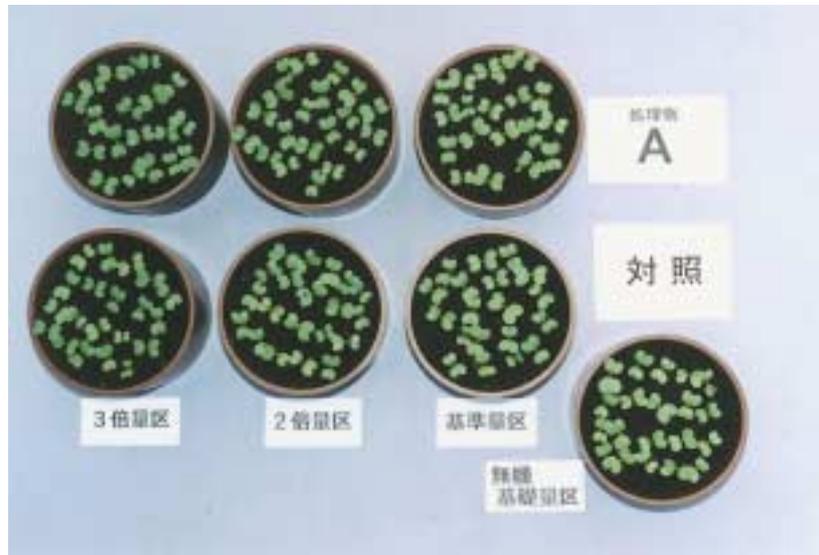
処理物 C : A モデル 2 (調理くず + 食べ残し + その他)

処理物 D : B モデル 2 (調理くず + 食べ残し + その他)

熟成期間無し（施肥直後播種）

処理物A（基準量区～3倍量区）

発芽状態（平成13年12月12日撮影）

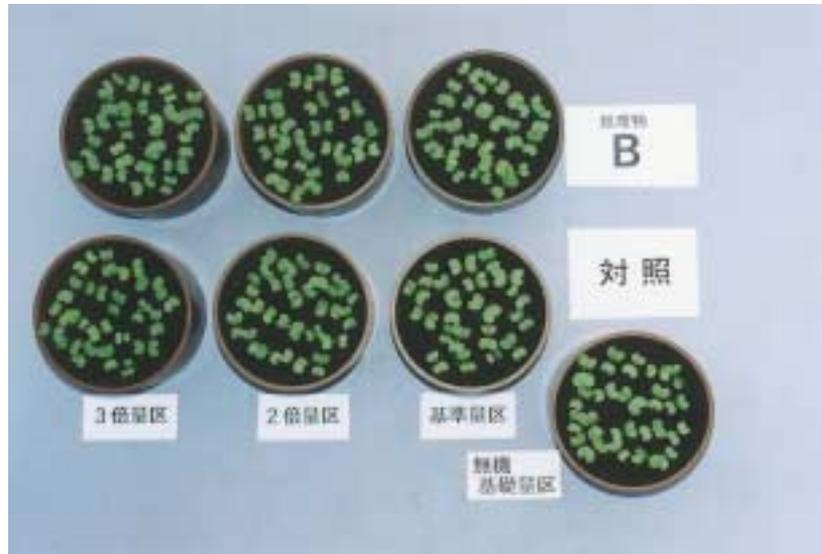


生育状態（平成13年12月25日撮影）



処理物B (基準量 ~ 3倍量区)

発芽状態 (平成13年12月12日撮影)

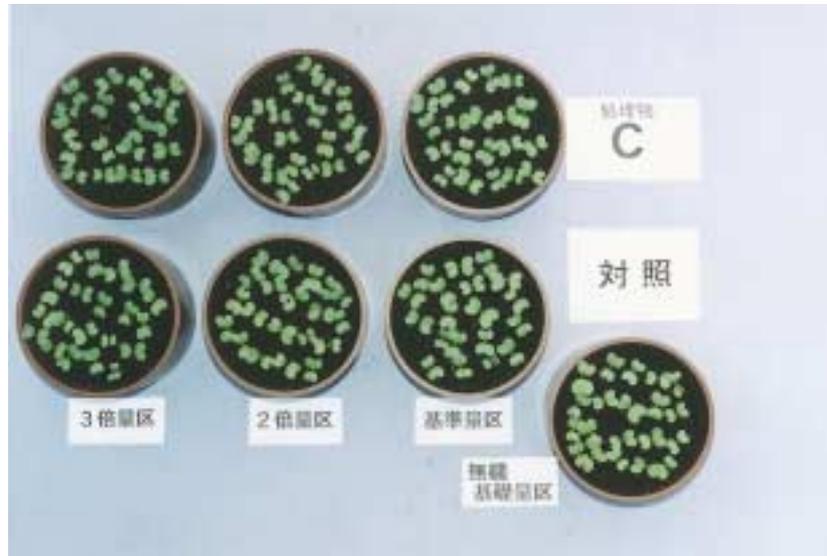


生育状態 (平成13年12月25日撮影)



処理物C (基準量区 ~ 3倍量区)

発芽状態 (平成13年12月12日撮影)

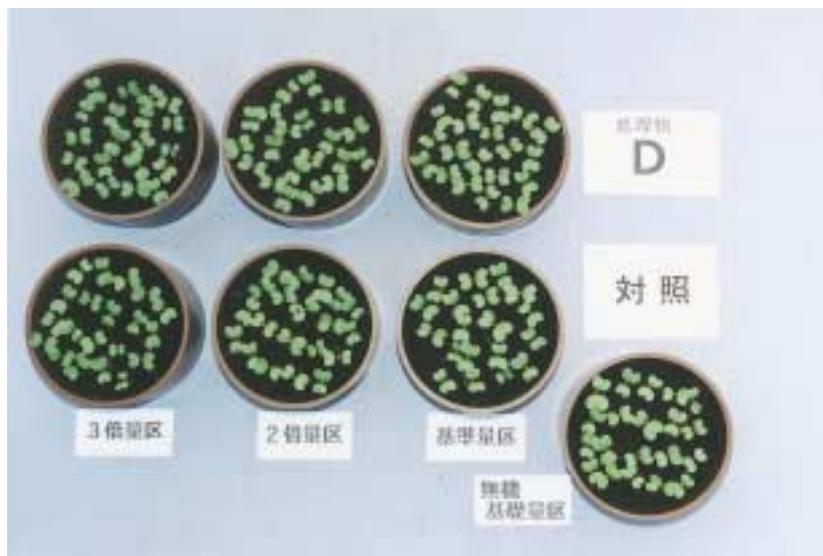


生育状態 (平成13年12月25日撮影)



処理物D (基準量区 ~ 3倍量区)

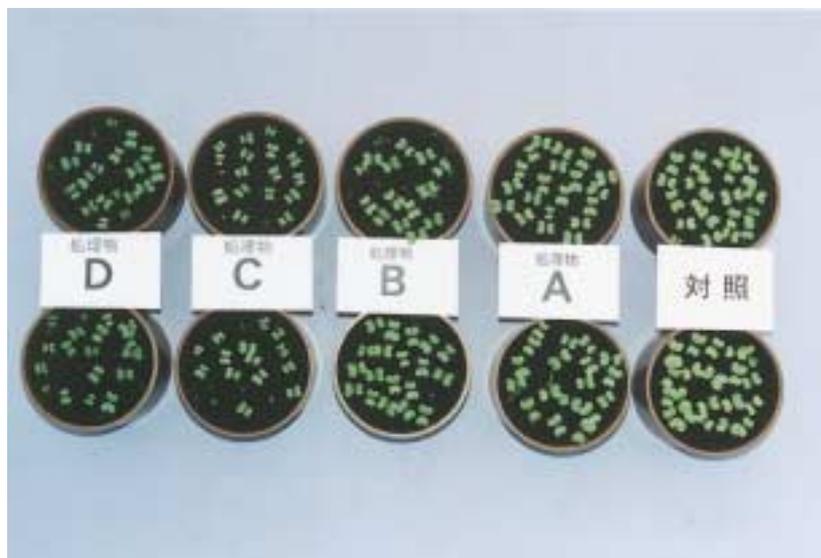
発芽状態 (平成13年12月12日撮影)



生育状態 (平成13年12月25日撮影)



メーカーの取扱説明書に従い処理物と土壌を1：3で混合したもの
発芽状態（平成13年12月12日撮影）



生育状態（平成13年12月25日撮影）



根張り状態 (平成13年12月26日撮影)

基準量区 ~ 3倍量区



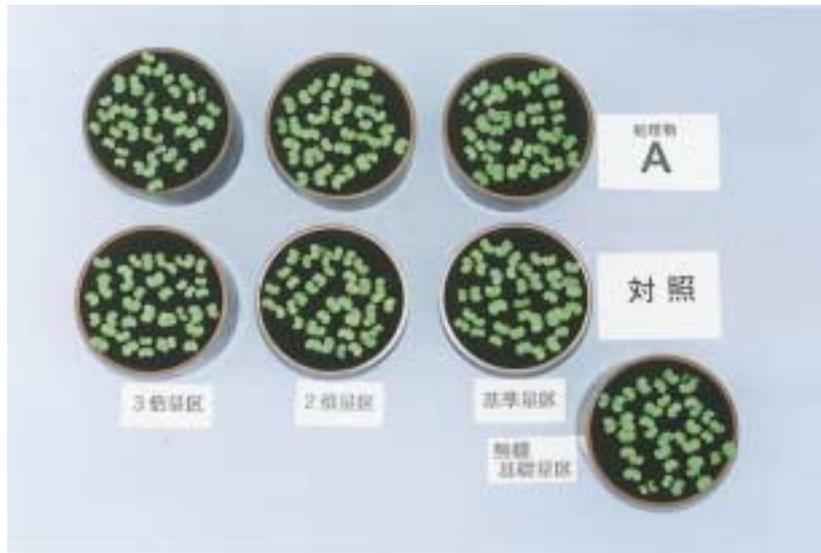
メーカーの取扱説明書に従い処理物と土壌を1:3で混合したもの



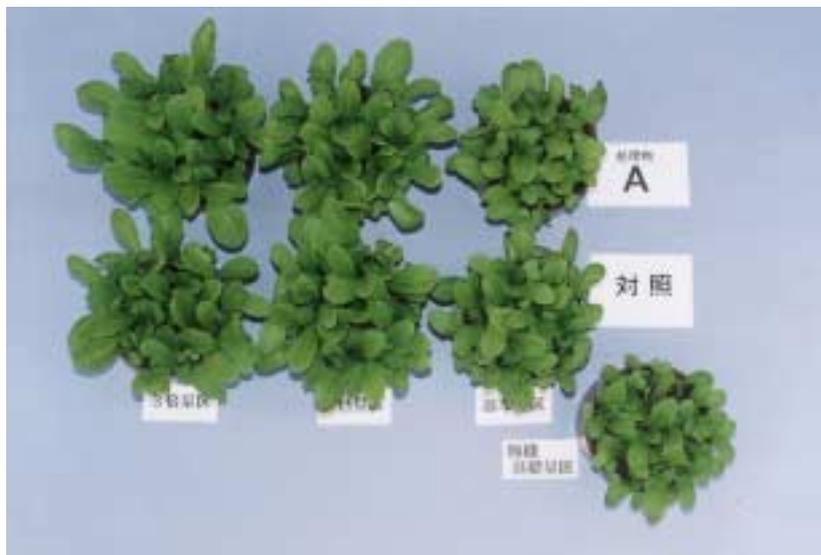
2 か月熟成したもの（施肥2 か月後播種）

処理物A（基準量区～3倍量区）

発芽状態（平成14年2月13日撮影）

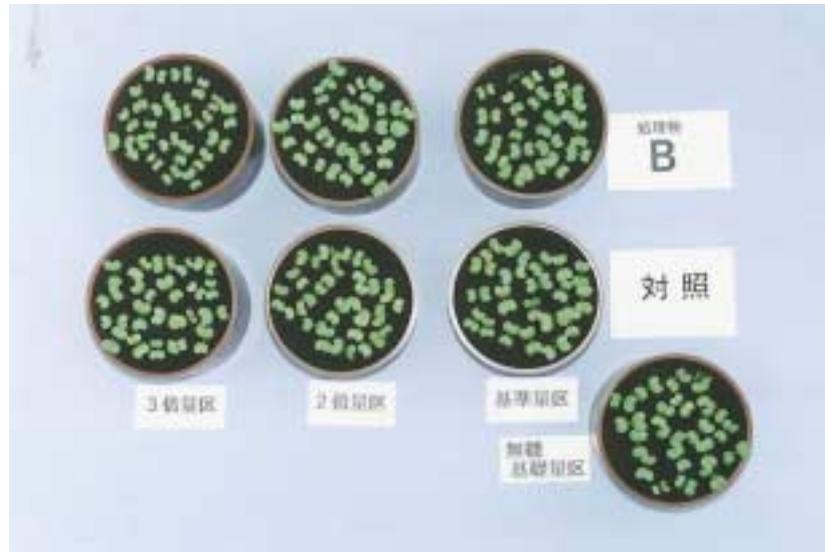


生育状態（平成14年2月26日撮影）



処理物B (基準量区 ~ 3倍量区)

発芽状態 (平成14年2月13日撮影)



生育状態 (平成14年2月26日撮影)

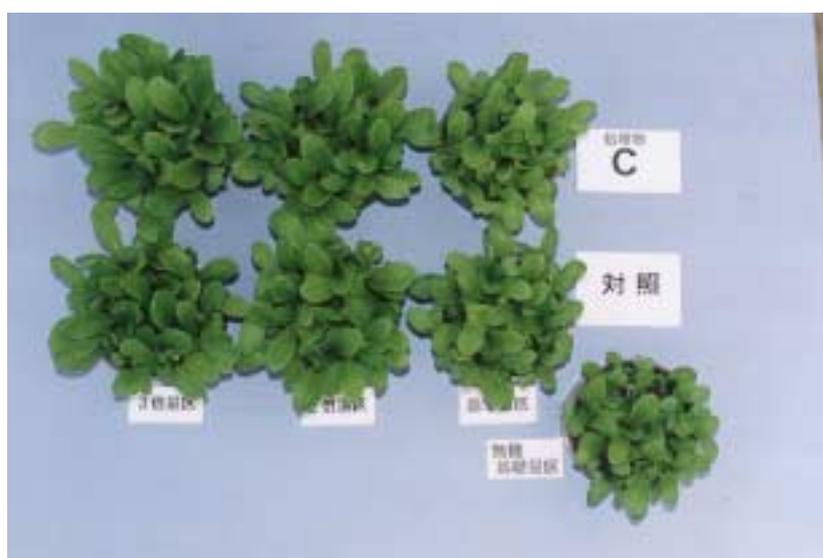


処理物C (基準量区 ~ 3倍量区)

発芽状態 (平成14年2月13日撮影)

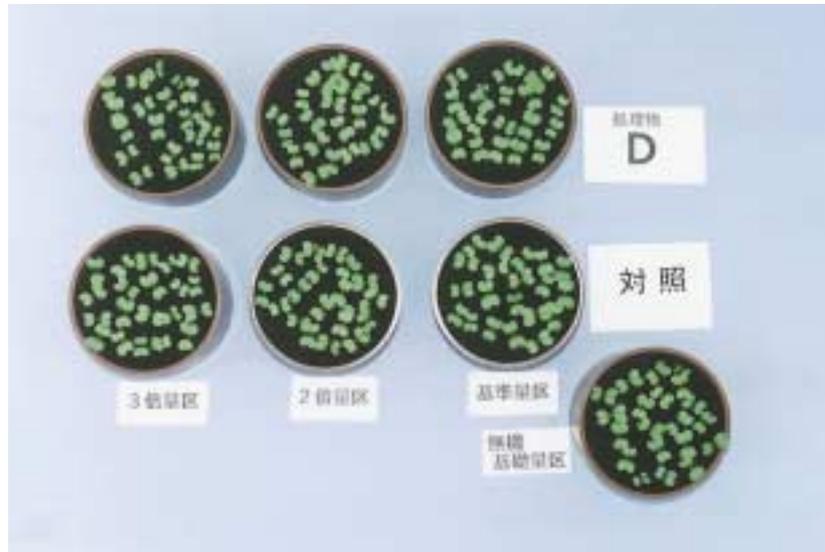


生育状態 (平成14年2月26日撮影)



処理物D (基準量区 ~ 3倍量区)

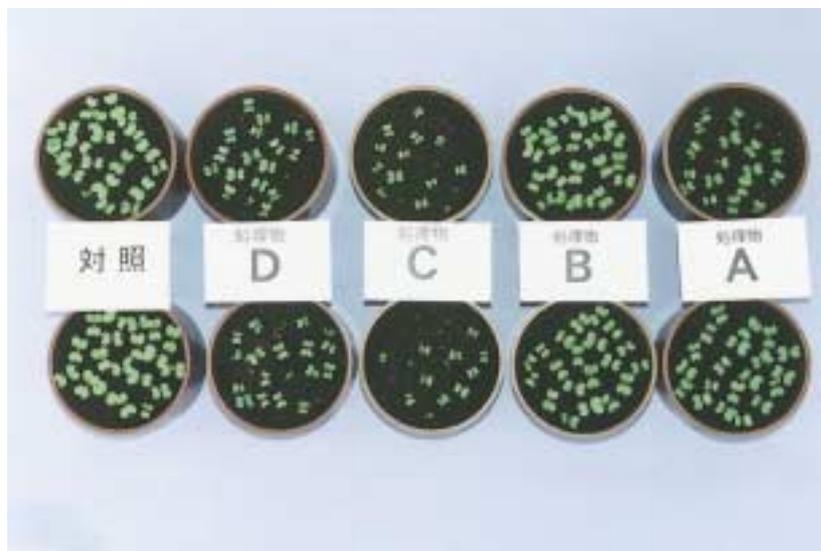
発芽状態 (平成14年2月13日撮影)



生育状態 (平成14年2月26日撮影)



メーカーの取扱説明書に従って処理物と土壌を1：3で混合したもの
発芽状態（平成14年2月13日撮影）



生育状態（平成14年2月26日撮影）



根張り状態（平成14年2月26日撮影）

基準量区～3倍量区



メーカーの取扱説明書に従い処理物と土壌を1：3で混合



植害試験方法

1. 植害試験の対象

- (1) 熟成無しの処理物 4 検体
- (2) 処理物を供試土壌と混ぜ、2 月間熟成させたもの 4 検体

2. 植害試験の設計

(1) 試験の規模

ノイバウエルポット(内径 11.3cm、高さ 6.5cm。以下「ポット」という。)を使用し、1 試験区当たり 2 ポットの平行試験を行った。

(2) 供試土壌

供試土壌は表層腐植質黒ボク土を用いた。供試土壌を 2mm の網ふるいを通し、風乾してから使用した。

(3) 供試作物

小松菜

(4) 施肥の設計

ア. 試験区の構成は、「基準量区」、「2 倍量区」、「3 倍量区」、「メーカーの取扱説明書に基づき処理物と土壌を 1 : 3 で混合した試験区」の 4 区とした。また、対照肥料を用いたものは「基準量区」、「2 倍量区」、「3 倍量区」の 3 区、「無機基礎量区」は 1 区とした。

なお、対照肥料は有機質肥料を用いた。

イ. 処理物、対照肥料を用いた試験区は、ポット当たり N として 50mg を「基準量区」とし、この施用量を基準として、2 倍量を施用する試験区を「2 倍量区」、3 倍量を施用する試験区を「3 倍量区」とした。また、処理物と供試土壌を 1 : 3 の容量で混合(メーカーの取扱説明書による)したものを「メーカー仕様の試験区」とした。

なお、窒素飢餓等による生育遅延を回避するために、「ポット当たり N、 P_2O_5 及び K_2O としてそれぞれ 25mg に相当する量の硫酸アンモニア、過りん酸石灰及び塩化加里を施用した。

ウ. 「無機基礎量区」は、ポット当たり N、 P_2O_5 及び K_2O としてそれぞれ 25mg に相当する量の硫酸アンモニア、過りん酸石灰及び塩化加里を施用した。

各試験区ごとの処理物、対照肥料の施用量は別表に示した。

3 . 試験の実施手順及び管理

(1) 処理物及び対照肥料の調製

粉碎、切断等を行い、1 mm の網ふるいを通したものを使用した。

(2) 処理物及び対照肥料の施用及び土壌の充てん

ポット当たりその約 80 %に相当する一定量 (500ml) の供試土壌に各試験区ごとに定められた量の肥料を加えてよく混合し、これをポットに充てんした。

(3) 土壌水分

水を加えて、ポット内の土壌水分が最大容水量の 50 ~ 60 %となるようにした。

(4) 播種

ポット当たりの播種量は 20 粒とし、ピンセットを使用して等間隔に播種した。なお、熟成期間が 2 か月の処理物については、播種までの間、ポット内の土壌水分が最大容水量の 50 ~ 60%を維持するようにした。

(5) 栽培管理

試験期間中における土壌水分の管理については、試験を開始してから発芽後 1 週間は、上記(3)に掲げる土壌水分の状態を維持するよう水分を補給し、その後は、生育状態、土壌の乾燥状態に応じて適度の水分状態 (最大容水量の 40 ~ 70 %)を保つよう適宜灌水した。

また、温度管理については、15 以上 30 以下で管理した。

(6) 栽培期間

播種後 3 週間栽培した。

供試土壌の土性等

採取地:千葉県八街市	交換酸度:0.6
土壌の種類:表層腐植質 黒ボク土	電機伝導度:0.09(mS/cm)
土性:L	陽イオン交換容量:30.6(meq/乾土100g)
沖積土又は洪積土の別:洪積土	容積重:365(g/風乾土500ml)
pH:5.9	最大容水量:95(重量%/乾土)

処理物等の施用量

試験区	試料	施用量区	施用量 g/ポット	成分量(mg/ポット)		
				N	P ₂ O ₅	K ₂ O
A(モデル1)		基準量区	2.96	50	23	50
		2倍量区	5.92	100	46	99
		3倍量区	8.88	150	69	149
		メーカー仕様の試験区	60.30	1020	470	1010
B(モデル1)		基準量区	3.50	50	27	61
		2倍量区	6.99	100	53	121
		3倍量区	10.49	150	80	181
		メーカー仕様の試験区	57.00	820	430	990
A(モデル2)		基準量区	2.09	50	22	39
		2倍量区	4.18	100	44	78
		3倍量区	6.28	150	67	117
		メーカー仕様の試験区	71.00	1700	750	1330
B(モデル2)		基準量区	2.69	50	22	41
		2倍量区	5.38	100	44	83
		3倍量区	8.06	150	65	124
		メーカー仕様の試験区	65.00	1210	530	1000
対照・有機質肥料		基準量区	0.83	50	29	4
		2倍量区	1.65	100	57	9
		3倍量区	2.48	150	85	13

施肥:いずれの試験区に対しても、N、P₂O₅、K₂Oとしてそれぞれ25mg/ポットに相当する硫酸アンモニア、過りん酸石灰、塩化カリウムを施用した。また、無機基準量区についても同様に施肥した。

メーカー仕様の試験区とは、メーカーの取り扱い説明書に従い処理物と土壌を1:3で混合したもの

追加テスト

1．目的

本テストを実施したところ、食べ残しを投入した生ごみ処理機の処理物は、食品の周りに基材が付着し団子状態になる現象が見られた。一方、食べ残しを投入しなかった方は団子状態になるものはあまり見られなかった。団子状態になると、食品は分解されないでいつまでも残るため、その原因を調べるために追加テストを行うこととした。

2．テスト期間

平成14年1月4日～3月25日

3．投入生ごみ及び投入量

油分を多く含むグループと油分の少ないグループについて比較した。投入した生ごみ及び投入量は別紙のとおり。なお、この時、生ごみ処理機はAを使用した。

4．テスト結果

油分の多い生ごみ、油分の少ない生ごみともに団子状のものができた。団子状のものは油分の多い方がやや多かった。この結果から、団子状になるのは、主としてごはん、うどんなどのでんぷん質のものが原因と考えられる。

投入量の内訳(追加テスト)

単位 g

区分	内訳	油分:多い	油分:少ない	
調理くず	野菜類	タマネギ	2352	2352
		ダイコン	3269	3269
		ジャガイモ	3850	3850
		キャベツ	3626	3626
		ニンジン	1559	1559
		ゴボウ	114	114
		白菜	488	488
		枝豆	1260	1260
	果物類	リンゴ	4620	4620
		バナナ	2292	2292
		ミカン	3582	3582
		柿	200	200
	魚介類	サンマ	945	945
		イワシ	336	336
卵殻		399	399	
小計		28892	28892	
食べ残し	ご飯つぶ		3489	3489
	麺類	うどん	2226	2226
	パン		336	336
	野菜類	野菜炒め	3050	
		煮物	2928	2928
	果物類	リンゴ	1281	1281
	魚介類	サバ煮付け	1281	
	肉類	鶏唐揚げ	854	
	小計		15445	10260
その他	茶殻		770	770
	コーヒーかす		427	427
	小計		1197	1197
	合計		45534	40349

マークの数字は掲載ページを示しています。

表示・操作部



バイオ状態選択

■ 蓋内側に貼付けてある「グッドバイオの上手な使い方」のカラー写真を参照してください。

「しめっている」●グッドバイオがベタついている場合。

※「しめっている」運転は、ヒーターの温度と換気ファンの風量を上げて処理槽内の水分蒸発量を多くしています。

「ふつう」●良好な分解状態でグッドバイオがやや湿りけを持ちバラバラとばらける状態。

「かわいている」●グッドバイオがバサバサに乾燥している場合。

※「かわいている」運転は、換気ファンの風量を下げて機外への水分排出量を少なくしています。

お願い バイオ状態選択は目安としてご使用ください。

表示ランプ

- 電源プラグをコンセントに差し込むと「ふつう」ランプが点灯します。
- 「かわいている」ランプが点滅：かくはんが停止しています。
※かくはん運転に異常があると自動的にかくはんが停止します。
- ランプがすべて消灯：電源プラグが差し込まれていません。

バイオ状態選択ボタン

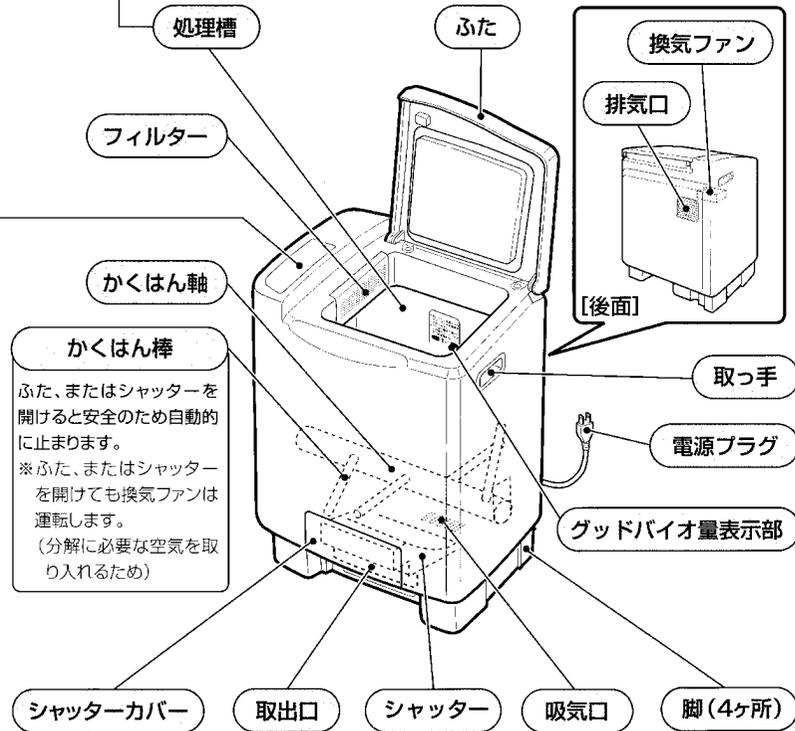
●押すごとに設定が切り換わります。
「ふつう」→「かわいている」→「しめっている」

付属品

グッドバイオ
1袋(約18L)

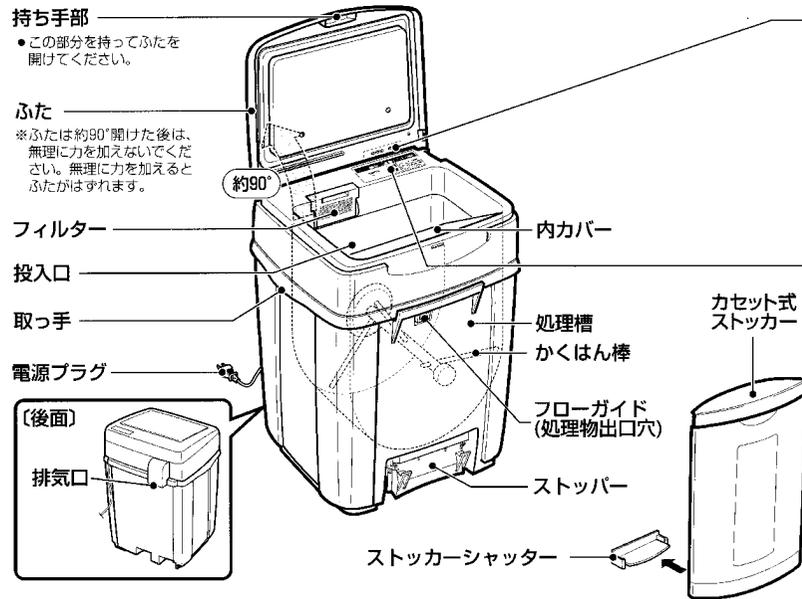


- 処理槽内に収納しています。
- 取り出すとき袋がやぶれてグッドバイオが処理槽内にもれても支障ありません。
- 自然界の働きを持った生きたバイオと、よりすぐった木材を加工ブレンドしたもので、バイオの育成に必要な「空気」「温度」「水分」などを適切に保つ素材です。



かくはん棒
ふた、またはシャッターを開けると安全のため自動的に止まります。
※ふた、またはシャッターを開けても換気ファンは運転します。
(分解に必要な空気を取り入れるため)

適用	一般家庭用・屋外設置型	使用地域	極寒地域を除く
電源	AC100V 50/60Hz共用	消費電力	最大155W
処理能力	最大1.5kg/1日(標準700g/1日)	コードの長さ	2m
寸法	幅484×奥行374×高さ594mm	質量	12kg(本体のみ)
運転	ふたを閉めたとき約2分間かくはん、その後は30分毎に約2分間かくはん		



表示部

- ランプが点灯または消灯している場合は正常運転です。ランプが点滅している場合は「故障かな?と思ったら」(P17~18)に従って対応してください。

- 自動運転ランプ** ●自動運転時点灯
- 投入中止ランプ** ●水分過多時に点灯(P8参照)
- 水補給ランプ** ●乾燥時に点灯(P8参照)
- チップ補充ランプ** ●ホールチップ補充時期に点灯

操作部

- リセットボタン** ●ホールチップの補充または交換後に押します。(P10参照)

付属品 処理槽の中に収納しています。

- ホールチップ** 1袋 (約18L)
 - 微生物の育成に必要な「空気」「温度」「水分」などを適切に保つ微生物のすみかです。
- 分解促進剤** (主成分：炭酸カルシウム、分解菌) 1袋
 - 微生物が活発化する手助けをします。(P10参照)

設置のしかた

設置場所について (屋外専用タイプのため室内には設置しないでください。)

- 風通しが良く、雨水がたまり水浸しにならない場所に設置してください。

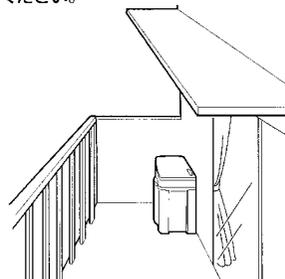
水浸しになる場所では、感電や漏電火災の原因になります。室内・ガレージ・物置などへの設置はおいがこもります。

- 屋外の水平で安定した場所に設置してください。

不安定な場所では転倒によりケガをすることがあります。

お願い ベランダに設置する場合は、壁側にしてください。

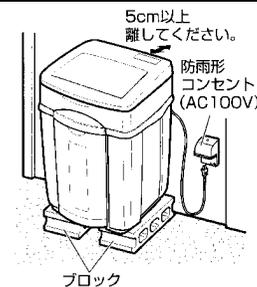
- 落下、転倒防止のため。



設置方法について

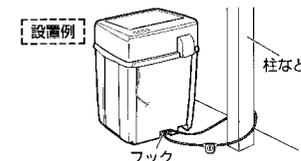
- 壁から5cm以上離してください。排気口をふさがらないためです。また排気口の後ろに物を置かないでください。排気できず故障や過熱の原因になります。
- 土や芝の上に設置する場合は、直接置かないで市販のブロックを敷いてください。

お願い ダンボールや発泡スチロールなど水や熱で、変形、変色しやすいものの上に設置しないでください。



盗難防止のために

- 市販のカギやチェーンなどをお買い求めの上、フックを利用して本体を固定してください。



適用	一般家庭用・屋外設置型	使用地域	極寒地域を除く
電源	AC100V 50-60Hz共用	消費電力	最大155W
処理能力	1.7kg/1日(週1日 2.2kg)	コードの長さ	2m
寸法	幅450×奥行415×高さ575mm	質量	12kg(本体のみ)
運転	ふたを閉めたとき約2分間かくはん、その後は30分または1時間30分毎に約2分間かくはん		

家庭用生ごみ処理機に関するアンケート調査

景気の低迷等により、ごみの発生量はひと頃より減少しているとはいえ、日々、大量のごみが発生しており、ごみ問題は依然として深刻な状況にあります。

こうした中で、家庭の生ごみを減量化し、処理物を有機肥料として使用できることをうたった「家庭用生ごみ処理機」が家電メーカー等から販売されています。

そこで、平成13年度の商品テストとして、家庭用生ごみ処理機による生ごみの減量化、処理物の有機肥料としての効果等についてテストを実施しているところではありますが、テストの一環として「家庭用生ごみ処理機」に関するアンケート調査を実施することとしました。よろしくご協力をお願いいたします。

アンケートに回答する前に、次の事項の該当するものに を付けてください。

性別：	男性	女性	居住地区：	区部	多摩	
職業：	常勤	非常勤	専業主婦	自営業	学生	無職
年代：	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
世帯構成：	単身	2人	3人	4人	5人	6人以上

．ごみ問題への関心

問1 ごみ問題に対する関心の度合いについて伺います。該当するものに を付けてください。

非常に関心がある

わりあい関心がある

あまり関心がない

その他()

問2 問1で 、 、 と答えた方に伺います。ごみ問題の中で、どのようなことに関心がありますか。関心の高いものに2つ を付けてください。

ダイオキシン、環境ホルモン等の有害物質

ごみの焼却等によって排出される二酸化炭素による地球温暖化

リサイクル

資源・エネルギーの消費

最終処分場のひっ迫

ごみの有料化

その他()

．生ごみの発生状況

問3 生ごみのうち、食べ残しの発生状況について、該当するものに を付けてください。

食べ残しが出ることが多い

食べ残しは時々出る

食べ残しはほとんどない

その他()

問4 賞味期限が切れるなどにより、冷蔵庫等で保管していた食品を廃棄することがあります。該当するものに を付けてください。

時々廃棄する

廃棄することはほとんどない

その他 ()

・生ごみの処理

問5 生ごみはどのように処理していますか。該当するものに を付けてください。

可燃ごみとしてごみ収集に出す

生ごみ処理機を使用して処理している

土に埋める

その他 ()

注)生ごみ処理機：微生物の働きによって生ごみを分解したり、熱によって乾燥させ減量化する機器をいう。生ごみ処理機には、生物分解型、乾燥型、コンポスト容器等がある。

生ごみ処理機

問6 生ごみ処理機の使用状況について該当するものに を付けてください。

現在、生ごみ処理機を使用している

過去、生ごみ処理機を使用していたが、現在は使用していない

生ごみ処理機を使用したことはない

その他 ()

(生ごみ処理機を使用したことがない方)

問7 問6で と答えた方に伺います。今後、生ごみ処理機で処理してみたいと考えていますか。該当するものに を付けてください。

生ごみ処理機を使用してみたい

生ごみ処理機を使用することは考えていない

その他 ()

(過去に、生ごみ処理機を使用していたが、現在使用していない方)

問8 問6で と答えた方に伺います。生ごみ処理機を使用しなくなった理由は何ですか。該当するものに を付けてください。

臭いがしたり、虫がわいたりして処理がうまくいかなかった

処理できるものとできないものがあるので仕分けに手間がかかりすぎる

処理物が多く出るため、有機肥料として利用しきれなかった

予想よりも電気代がかかった

騒音が気になった

その他 ()

(現在、生ごみ処理機を使用している方(問6で と答えた方))問9～問13

問9 生ごみ処理機を購入した理由は何ですか。該当するものに を付けてください。

可燃ごみの収集が来るまで生ごみを保管しておく臭いが発生し不快だから

生ごみの減量化に役立つから

処理物を有機肥料として使いたいから

その他 ()

問10 使用している生ごみ処理機はどのようなタイプですか。該当するものに を付けてください

生物分解型

乾燥型

コンポスト容器

その他 ()

問11 生ごみ処理機で処理した処理物はどのように利用していますか。該当するものに を付けてください。

家庭菜園、園芸用の有機肥料として使用している。

ごみとして出している

家庭菜園や園芸用の有機肥料として使うが、余ったときはごみとして出す

その他 ()

問12 家庭菜園や園芸用の有機肥料として使用したとき問題はありませんでしたか。該当するものに を付けてください。

植物の発芽、生育は特に問題はない

たまに植物の発芽、生育の良くないことがある

植物の発芽、生育の良くないことが多い

その他 ()

問13 生ごみ処理機での処理がうまくいかなかったり、気になることはありますか。該当するものに を付けてください。

臭いが気になる

虫がわいたことがある

騒音が気になる

処理できるものとできないものがあるので、その仕分けに手間がかかる

予想よりも電気代がかかる

その他 ()

自由意見

生ごみ処理機について、ご意見があれば記載してください。

平成 14年 7月発行

平成 14年度

登録第 8号

家庭用生ゴミ処理機
(微生物分解型)

編集・発行 東京都消費生活総合センター技術支援課

〒105-0022 東京都港区海岸 1-7-8

東京産業貿易会館 6階

電話 03(3433)8563~7 FAX 03(3431)8569

印刷

株式会社誠文堂

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-14

電話 03(5259)1551



古紙配合率100%再生紙を使用しています